

## 雇用における男女間格差解消を！

### 男女平等推進委員会と女性委員会が青森労働局に要請

男女平等の実現をめざす機運が世界の潮流となっている今、日本がこの流れに遅れを取ることなく、一人ひとりが尊重された多様性や包摂性のある社会実現をめざし、6月22日(木)、連合青森男女平等推進委員会と女性委員会は青森労働局に対し、職場における男女間格差の是正を求め、「雇用における男女平等」に関する要請を行った。

この要請には男女平等推進委員会の高橋博幸委員長と原浩輔事務局長が出席し、青森労働局雇用環境・均等室八木橋晃室長に要請書を手渡した。

要請内容は①雇用創出と生活困窮者への支援、②仕事と育児・介護、不妊治療等が両立できる就業環境の整備、③女性の活躍とジェンダー平等で多様性を認め合う社会の実現の3分野11項目。具体的には、コロナ禍により大きな打撃を受けた非正規雇用で働く女性やDV等により困窮した女性やその家族への支援体制と財源の強化と実態把握や、男性の育児休業取得促進や不妊治療を受ける労働者への配慮措置、各種ハラスメントの抑止・根絶に向けた啓発活動の強化等。

要請書を手渡した高橋委員長は「ジェンダー平等に向けた取り組みが成果につながるのは、時間がかかるものもあり道りは厳しいが、諸外国に比べ男女平等参画の遅れが指摘されている中で労働組合として足踏みしている余裕はない。困っている方へのきめ細やかな対策と確実に行き届く支



八木橋室長に要請書を手渡す高橋委員長(左)

援をお願いする」と強調した。

要請書を受けとった八木橋室長は「要請事項はいずれも喫緊の課題であり、適切な対応が必要と認識している。引き続き関係機関と連携しながら対策を継続する」と回答した。

意見交換に入り、連合青森からは「ハラスメントに関する相談を受ける際、相談者からの情報しがなく対応に難しさを感じている。労働局として同様の場合、どのように企業に介入しているのか」と質問。これに対し八木橋局長は「双方から意見を確認している。その際、ハラスメント有無の事実確認を行うのではなく、本来事業主が行うべき防止対策が取られているかという観点で聴取し行政指導を行っている。また相談者が匿名を希望された際は、定期的に行う事業所点検にタイミングを合わせ聴取し指導を行っている」と回答した。

#### 連合青森2023春季生活闘争妥結状況

2023年6月20日現在

	対象組合・員数	要求提出		加重平均		妥結状況		加重平均	
		組合数	率	金額	率	組合数	率	金額	率
連合青森	188組合 23,590名	128組合	68.09%	10,312円	4.78%	103組合	80.46%	8,498円	4.19%
地場労組	117組合 10,997名	75組合	60.00%	9,647円	4.93%	55組合	73.33%	8,468円	4.24%
		要求金額(単純平均)		要求率(単純平均)		妥結金額(単純平均)		妥結率(単純平均)	
非正規 ※時間額		33組合	57.7円	4.85%		31組合	53.5円	4.53%	

## 2023平和行動 in 沖縄

### 語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう

連合は6月から9月までを「全国平和運動強化期間」と定め、平和4行動をはじめとする様々な運動を行い、戦争による惨禍が再び起こることが無いよう、恒久の平和を希求するとともに戦没者の霊を慰めるために取り組んでいる。

#### 『連合2023平和行動in沖縄に参加して』

黒いご飯が炊けていた。というのは、昨年聞いた青森空襲の当事者の話。空襲警報で、防空壕に逃げ込み、翌日家に帰って見たら家は焼け落ちていて、逃げる前に準備していた釜の米が、蓋が燃えることで、黒くすすけたご飯が何とか食べられるくらいに炊けていた。その黒いご飯を母と姉妹で食べた。力強ささえ感じるような話だが、そう感じるの自分はその悲惨を体験していないからだろう。実際は1,000人以上が亡くなり、当時の写真を見ると焼け野原。空襲前日には明日空襲をするという予告のビラがまかれ、住民は街の外へ避難していたという。なぜ戻ってきたのか。語り継がなければならないことはたくさんあるのだろう。

この青森空襲の1か月ほど前の6月23日、3か月にわたった沖縄戦が終結した。現地沖縄ではその日を「慰霊の日」と定めている。

「慰霊の日」に行われた連合2023平和行動in沖縄に参加してきました。

冒頭、芳野会長は主催者とし「平和の尊さ、戦争の悲惨さを次の世代にしっかりと語り継ぎ、二度とこのような悲劇を繰り返さないことを固く

今年の平和行動の皮きりとして2023平和行動in沖縄が6月23日（金）～24日（土）の日程で開催された。全国から連合組合員など1,120名もが参加し、連合青森からは佐藤英司副会長（自治労）と金沢秀樹副会長（電力総連）が派遣された。

誓い合いたいと思います」「連合は政府に対して、地域の想いに心を寄せる努力を強く求めていきたいと思います」とあいさつしました。



平和オキナワ集会

翌日は、在日米軍基地の実情や南部戦跡を視察・学習するピースフィールドワークに参加しました。在日米軍基地コースということで、嘉手納飛行場やチビチリガマなどを回りました。ガイドは連合沖縄青年委員会が担っていました。ろうきん労組出身で初めてのガイドで緊張しているといっていたものの、パネルなどを活用しながら、ずいぶんと事前準備に時間をかけているようでとても感心しました。語り継ぐ、風化させないという思いを強く感じました。今ウクライナで起きていることについてどう思っているのか聞きたかったのですが忙しそうで聞けませんでした。

1,000人以上の参加者が集う平和行動に参加させていただいたことに感謝し報告といたします。

連合青森副会長 佐藤 英司

#### 『連合2023平和行動in沖縄に参加して』

私の父の名は「武勝（たけかつ）」。幼少のころは変わった名前だと思っていた。あるとき祖母から名前の由来を聞いたことがある。父は昭和20年9月生まれ。「次の戦争には勝利してほしい」そんな願いを込めての命名だったそう。また戦争が起こるだろう前提だ。そういう状況だったのだろう。昭和20年生まれの男性への命名に使われた

文字1位は「勝」である。

私の故郷は東津軽郡平館村、昭和49年生まれで戦争体験者ではない。

祖父母や親戚から戦争の話が聞かされた記憶はな



チビチリガマ

く、戦争時の村の状況もわからない。戦争は学校の教科書とテレビの特別番組などで学んだ程度である。私は死ぬのは怖いし戦場へも行きたくない。生まれた時代が戦国時代でなくてよかったと思う。今生きている日本国民はほとんど同じ思いだろうし、日本では戦争が起きないと思っているところもあるだろう。

わずか78年前のことである。命を懸けて戦った方々、飢えや疫病、集団自決で亡くなられた方々など戦争関連で亡くなられた方は大勢いる。残された家族の思いなど、沖縄の地に立ち改めて戦争の悲惨さや無念が自身の胸に突き刺さり張り裂けそうになった。

6月23日は旧日本軍のみならず日米双方全戦没者を悼んでいる。在日米軍による事件はこれまでも何度も起きており怒りを覚える。ただ日本人同士でも同じことは起きている。

歴史を振り返れば、人類は世界中でも日本国内でも争いを繰り返してきた。戦争は嫌だし戦争になってはだめだ。戦争にならないようにしていくことが必要だ。しかしそれだけで争いを逃れることができるのか。あらゆる生物は闘争本能がある。だとすれば意に反して巻き込まれることもある。日本国民の命と財産を守ることが国家の使命

であるならばどこかに防衛拠点は必要であろう。沖縄県に限らず全国の基地立地住民の気持ちを全国民が考え、思っていくことが必要だ。

争いから避けることはできないかもしれないが、それでも平和を願い、これまでの戦争で多大な犠牲があったことを後世に絶えることなく伝え、戦争をしないようにしていくことが最良であると願う。

昭和20年生まれ的女性への命名1位は「和子」2位は「幸子」である。

人生において貴重な機会を頂きましたことに連合青森に集う組合員の皆さまへ心から感謝を申し上げます。



嘉数高台の砲台



金沢副会長⑥と佐藤副会長⑤

連合青森副会長 金沢 秀樹

### 2023年7月行動予定 7月10日現在

- 7月12日(水) 17時45分 県労働福祉会館  
「第1回食みみ実行委員会」
- 7月14日(金) 10時30分 県労働福祉会館  
「第3回政策委員会」
- 7月14日(金) 13時30分 県労働福祉会館  
「第16回政治センター幹事会」
- 7月14日(金) 14時30分 県労働福祉会館  
「第5回戦術会議」
- 7月14日(金) 上記終了後 県労働福祉会館  
「第12回四役会議」
- 7月15日(土) 9時 県労働福祉会館  
「第4回女性委員会幹事会」

- 7月18日(火) 18時30分 WEB  
「第6回青年委員会幹事会」
- 7月24日(月) 11時 県労働福祉会館  
「第4回地場労対策委員会」
- 7月24日(月) 13時30分 県労働福祉会館  
「第5回闘争委員会」
- 7月24日(月) 上記終了後 県労働福祉会館  
「第20回執行委員会」
- 7月25日(火) 14時 県労働福祉会館  
「2023地域活性化フォーラム」

### 2023年8月行動予定

- 8月1日(火) 13時30分 県労働福祉会館  
「第1回最賃対策委員会」

## 労使双方で「ワークルール」に関する知識を高め、労働問題の是正・解決に！ 「ワークルール検定2023・春(初級)」

連合やNPO法人職場の権利教育ネットワークなど全6団体で構成される一社)日本ワークルール検定協会は、「ワークルール検定2023・春」を6月11日(日)、初級24会場、中級9会場で一斉に開催した。青森県においては青森市の労働福祉会館で「初級検定」を開催し、34名が受検した。

近年「ハラスメント」などの労働相談の増加や、「ブラック企業」の社会問題化など、使用者側と労働者側双方の「ワークルール」に関する知識の欠如に起因した労働問題が顕著化している。また学校教育でも実践的な教育はされず、社会に出てから困難に巻き込まれるケースも増加傾向にある。このような労働をめぐる問題を是正・解決するためには労使双方の「ワークルール」に関する知識・認識を高めていく必要があることから、本



真剣に取り組む  
受検者の皆さん

検定は2013年から「ワークルール」の社会的普及と健全な労働環境の実現を図ることを目的に実施され、県内においては6回目の開催となる。

初級検定は20問中14問正解で合格となり、次のステップ「中級検定」の受検が可能となる。合格発表は7月3日(日)に協会の公式ホームページに掲示された。

## サポート 「仕事で悩むあなたを応援します」

### 女性のための全国一斉労働相談ホットライン

近年、女性活躍推進法や改正育児・介護休業法、ハラスメント対策関連法が施行されるなど働く女性に関わる法整備は進んでいるものの、一方ではセクハラ・パワハラ・マタハラなど「差別等」



に関する相談が増加傾向にある。

このような状況を踏まえ、連合は6月6日(火)と7日(水)の2日間、女性を

対象にした全国一斉相談ダイヤルを実施した。また労働相談ダイヤル周知のため、6月5日



高畑紀子県議(立憲)も  
街頭行動に参加

(月)12時から青森市の「さくら野百貨店」前にて街頭行動を行い、性差別のない職場環境や労働組合の意義・必要性を訴えた。

#### ■全国一斉相談ホットライン集計

(本部オンライン相談別)

	総数	男性	女性
連合本部	570件	116件	454件
連合青森	2件	-	2件

#### ■雇用形態(連合青森): 正社員2件

#### ■相談内容(連合青森) ※複数該当あり

パワハラ・嫌がらせ	1件	その他	2件
-----------	----	-----	----

#### ■相談事例

- こども園勤務。園長のパワハラにより体調不良で休職3か月。園長はパワハラを認めている。休職後復職にあたり、改善してほしいことが様々あり、どのように園に言ったらよいか。また、休職中は無給。有休使用后、傷病手当の申請と言われているが、それで良いのか。(正社員・女性・40代)

## 働く者・生活者の立場にたった政策実現に向けて！

### 連合青森推薦県議との意見交換会

連合青森は本県が直面する課題を取りまとめ、働く者・生活者の立場から毎年、県に対し政策要請を行っている。今回はこの要請内容をより実効性の高いものにするため、6月23日（金）、連合青森推薦県議会議員8名と意見交換を行った。

内容は①雇用・労働、②子育て・教育、③地域・経済活性化、④福祉・社会保障、⑤環境、⑥公共交通、⑦農林漁業、⑧資源・エネルギーの8分野18項目。

意見交換に入り、がん患者の治療と仕事の両立支援推進について「未だ婦人科検診を自己負担としている企業があり、個人では検診費用が高いため受けないケースが多いと聞く。支援することで受診率を高め、がんを未然に防ぐという施策はどうか」という意見や「がんだけでなく膠原病や難病も盛り込んでほしい」という要望も出された。また仕事と介護の両立『ビジネスケアラー』対策



意見交換会の様子



連合青森推薦県議8名の皆さん

について「理解が十分に進んでいない課題であり、県だけでなく企業も主体的に対策を講ずる課題ではないか」や「本県は自殺率が高いことを課題と捉えている。来年の要請項目に反映してほしい」など多くの意見・要望が出された。

連合青森ではこれらの意見内容を踏まえ、8月29日（火）に県に対し政策要請を行うこととしている。

## ライフサポートセンターあおもり 生活なんでも相談ダイヤル

フリーダイヤル **0120-629-106**

■相談受付日■  
平日（土・日・祝祭日を除く）

■相談時間■  
午前10時～午後4時

■専門家の皆さん■  
弁護士、社会労務士、司法書士、  
消費生活アドバイザー

※相談は原則無料、専門家に相談する場合は、別途料金がかかる場合があります。



■主な相談できる内容■

金融関係、生活保障関係、  
医療保険、年金関係、  
消費生活関係、法律関係、  
子育て・教育、福祉、介護、  
女性相談、メンタルヘルス

### 「ライフサポートセンターあおもり」

高齢化社会の到来、経済格差の拡大など社会構造の急激な変化は、多くの悩み事を生み出しています。そんな時、働く多くの人々の生活に関する不安を解消し、勤労者と家族が豊かに生きがいのある生活を送るために、青森県労働者福祉協議会の「ライフサポートセンターあおもり」が、そのお手伝いをさせていただきます。生活に関するお悩みをお気軽にご相談ください。

# 「アンコン」意識することで変化や可能性を！

## アンコンシャスバイアス学習会

連合青森フェアワーク推進会議と男女平等参画推進委員会は6月10日（土）13時30分から青森県労働福祉会館にて「アンコンシャスバイアス学習会」をハイブリット形式で開催し55名が参加した。

この学習会は昨年、アンコンシャスバイアスに関するアンケートを実施した結果、無意識の偏見が多くの方に潜在している内容となったことから、さらなる理解浸透を図ることを目的に行われた。

フェアワーク推進会議中野隼委員長はジェンダー平等について「G7広島サミット前にLGBT理解増進法案が出されたが、内容は差別禁止規定が明確に定められておらず、G7の中でLGBTQへの差別禁止や同性婚を認めていない国が唯一日本だけとなり、またジェンダーギャップ指数において日本の総合順位はG7内で最下位となった。これらの社会課題にもあらゆるバイアスがはびこっていると認識する。女性参画の取り組みを加速させるべく、協力をお願いする」とあいさつした。

続いて学習会に入り、一社）アンコンシャスバイアス研究所の杉本美晴理事を講師に迎え、『アンコンシャスバイアスを知る、気づく、対処する～ひとりひとりがイキイキと活躍するために～』と題し講演いただいた。

杉本理事は「アンコンシャスバイアス（略・アンコン）は日常にあふれ誰にでもあるもの。しか



学習会の様子

しアンコンに気づかずにいると他人だけでなく自分をも無意識に傷つけていることもあり、良かれと思って発した言葉や配慮にもアンコンが潜んでいることがある。また職場での性別に対する押しつけや決めつけといったアンコンが女性のキャリアアップの妨げとなりネガティブな影響を起すきっかけにもなっている」と述べた上で、『「これって私のアンコン？」と意識することでモノの見方や捉え方が変わったり、これまでなかった可能性を広げることができる」と語った。



中野隼委員長



杉本美晴講師

※アンコンシャスバイアスとは「無意識の偏見」と表現され、実例としてよく知られていることは「男性だから」「女性だから」「文系だから」「理系だから」といった決めつけを無意識にしてしまうことをいう。

13時30分

連合エコライフ

# ピークカットアクション夏

2023

**OA機器**

- ① 省エネモードを設定し、未使用時には電源をこまめに切る。
- ② プリンター等の共有機器の使用台数を、必要最低限に。
- ③ 仕事おわりには共有機器の主電源を切つて終了。できればテーブルトップの電源オフ。

**空調**

- ① 室内、屋外等の職場環境に応じた服装の調整。クールビズの実践を。
- ② 扉やカーテン・ブラインドの使用、扇風機の活用で空調の効率化を。
- ③ こまめなエアコンのフィルター清掃などで、効率的に利用しよう。
- ④ 暑中厳対策をしながら節電に取り組みよう。暑さ指数<sup>※</sup>や各種アラートをチェックし、水分・塩分を補給しよう。

**照明・暖房**

- ① 昼休みや未使用時の事務所・会議室・トイレなどの、こまめな消灯を。
- ② LED電球への買い換えや、可能な範囲で電球の数の引き換えを。
- ③ 目に負担をかけない範囲で明かりを抑えよう。

**冷蔵庫**

- ① 温度設定を控えめに（強にしない）。
- ② 扉の余分な開閉をせず、開閉時間も短く。

**トイレ**

- ① 温水洗浄便座は、使用や温度設定を控えめに。
- ② 流水洗浄時と使用後は、便座のふたを閉めて。

**フロア照明**

- ③ 施設の利用を推奨し、エレベーターやエスカレーターの使用を最低限に。

※暑さ指数＝熱中症を予防することを目的に、人間の熱バランスに影響の大きい①気温、②湿度、③輻射熱の3つを取り入れた指標